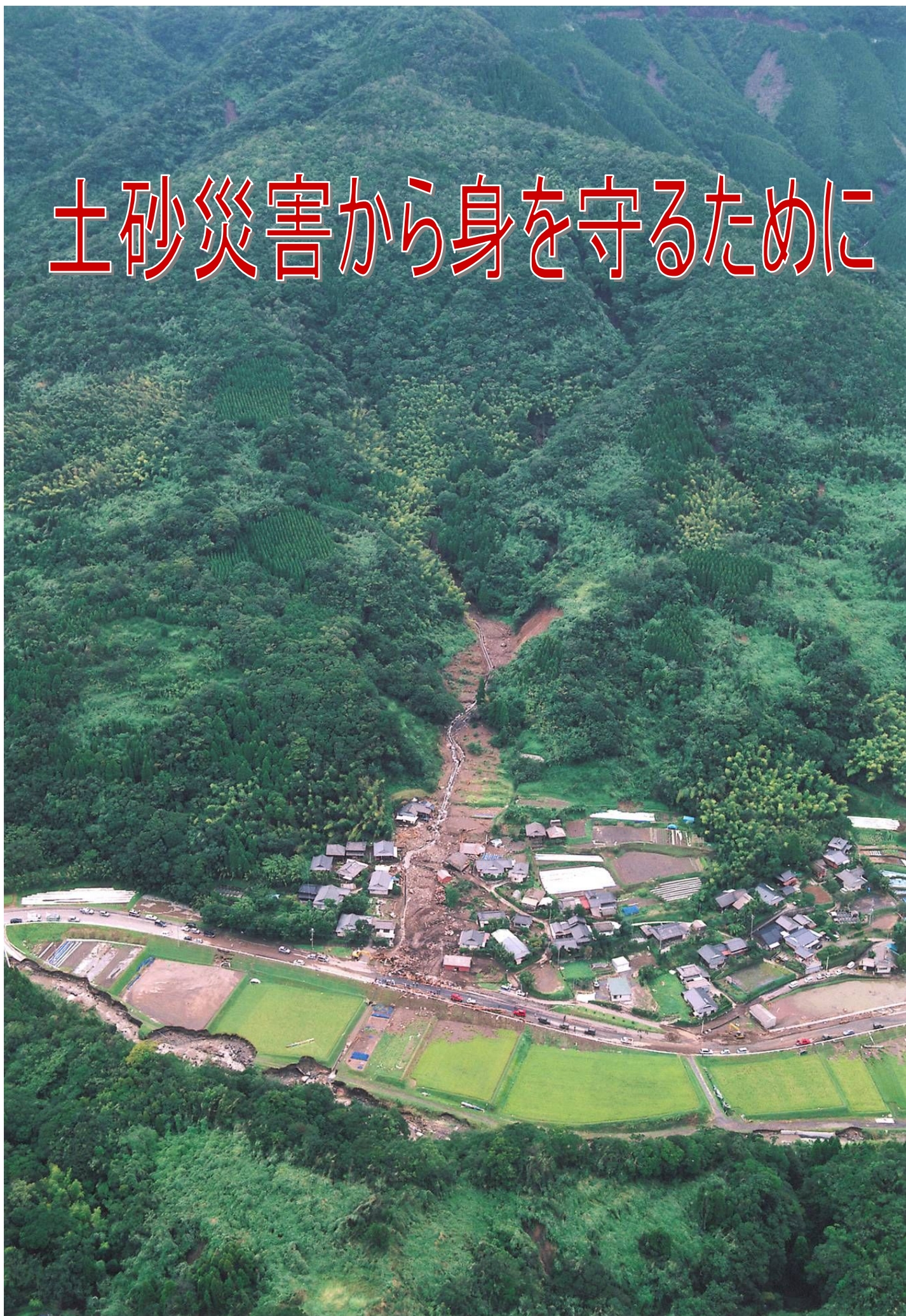


土砂災害から身を守るために



# 土砂災害とは？

## がけ崩れ

急傾斜地( 傾斜の角度30度以上で高さが5m以上のもの )において、大雨や長雨などにより雨水が地面にしみこみ、緩んだ“ がけ ”がとつぜん崩れ落ちるものです。

愛媛県 急傾斜地崩壊危険箇所  
8,807 箇所



## 土石流

山や谷( 溪流 )の土、石、木などが、大雨や長雨等による水と一体となって、すごい勢い( およそ時速40~50km )で流れてくるものをいいます。

愛媛県 土石流危険溪流  
5,877 溪流



## 地すべり

大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動き出すものをいいます。

愛媛県 地すべり危険箇所  
506 箇所



合計 愛媛県 土砂災害危険箇所 15,190 箇所

## 土砂災害の恐ろしさ、知っていますか？

- ・ 土砂災害は洪水などとはちがい、大きな破壊力で一気に襲ってくるため、人命に関わるととても恐ろしい災害です！
- ・ 土砂災害は豪雨や地震によって突発的に発生します。いつ、どこで、どのような規模で発生するのか、正確に予測することはできません！
- ・ 今まで崩れたことがない場所でも安心できません！
- ・ がけ崩れや土石流はあっという間のスピードで襲ってきます。気づいてから逃げることはとても困難です！

## あなたも身に覚えがありませんか？

悲惨な土砂災害を経験した地域では、こんな声が聞こえてきます。

まさか、自分の裏山が崩れるとは思っていなかった...

川があふれることには注意していたが、裏山が崩れるとは想像もしなかった...

大雨で不安だったが、近所の人たちが避難しないので大丈夫だと思った...

いざという時に、どこに避難したらいいのか分からなかった...

危険を感じて逃げようと思ったが、雨が強すぎて避難できなかった...

自分の家が土砂災害の危険区域になっているとは知らなかった...

避難したかったが、体が不自由でひとりでは避難できなかった...

長く降り続いたが、たいした雨ではないと思っていた...

# 行政と住民が力を合わせて

恐ろしい土砂災害から大切な命を守るために、国や県、市町はさまざまな役割を担いますが、突発的に発生する土砂災害に対して行政の力だけでは限界があります。地域の皆さんが「自らの命は自らで守る」という意識を持ち、行政と力を合わせて警戒避難を行うことが大切です。

## 行政の役割

豪雨時には...

- ・土砂災害警戒情報<sup>1</sup>などを住民の皆さんに伝えます！
- ・土砂災害警戒情報や前兆現象等<sup>2</sup>の通報にもとづいて、避難勧告等<sup>3</sup>を発令します！

平常時から...

- ・土砂災害に関するハザードマップなどを作成・提供しています！
  - ・土砂災害の広報をホームページなどを通じて行っています！
- 「愛媛県ホームページ」 「土木・建築」 「えひめの砂防」

<http://www.pref.ehime.jp/070doboku/070sabo/00005743041124/index.htm>

## 住民の役割

豪雨時には...

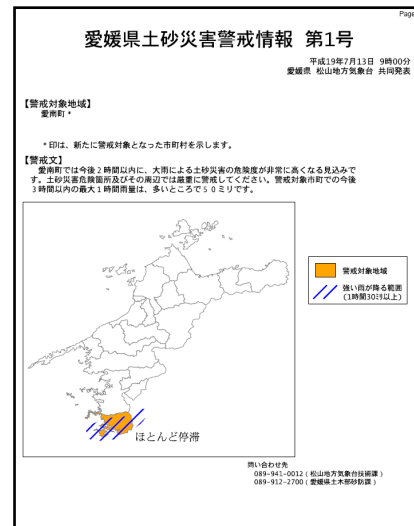
- ・土砂災害に対する危機感をもって前兆現象等<sup>2</sup>に注意し、近所に声をかけながら早めの自主避難に努めてください！
- ・避難勧告等<sup>3</sup>が発令された場合は確実に避難してください！

平常時から...

- ・土砂災害に関する知識や、地域の危険性、危険箇所や避難路・場所などを知ってください！
- ・「自らの地域は自らで守る」という意識を持ってください！

# 土砂災害警戒情報 <sup>1</sup>

土砂災害警戒情報とは、過去の土砂災害の発生実績をもとに、土砂災害が発生する危険性を判断し、県と気象台が共同で発表するものです。



県のホームページなどでも確認できます。是非ご覧下さい。

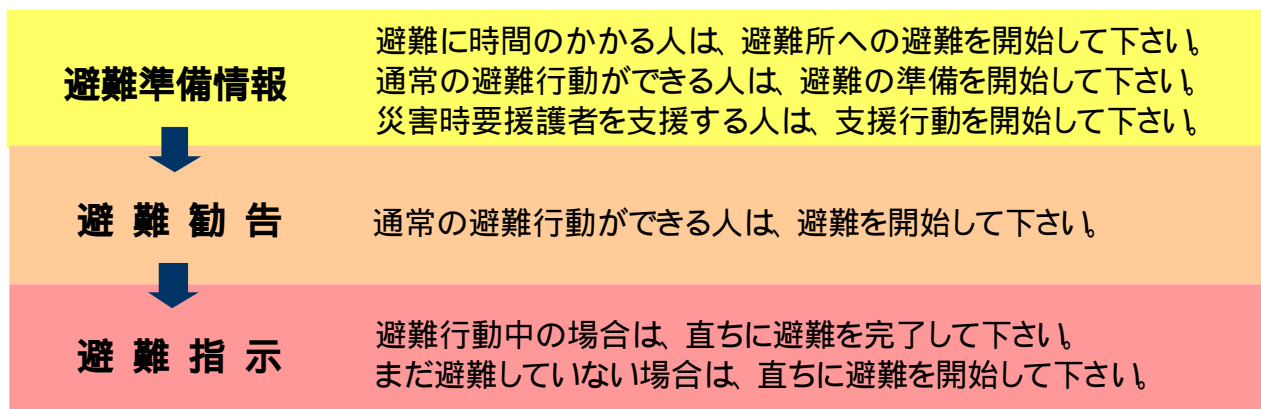
「愛媛県ホームページ」「河川・砂防情報」<http://www.pref.ehime.jp/> 前兆現象等 <sup>2</sup>

土砂災害の前兆現象には次のようなものがあります。



## 避難勧告等 <sup>3</sup>

市町では、避難の必要がある場合に、次のような3段階の発令を行います。



## 地域の防災力は大丈夫？

いつになく強い雨が降り続き、土砂災害の危険性が高まってきました。次のような時、あなたはどうしますか？

- ・ 自宅裏のがけから異常に水が噴き出してきて心配だ...  
（ 誰に伝えますか？ ）
- ・ 隣の家のがけが危ないようだが留守のようだ...  
（ 誰に連絡しますか？ ）
- ・ 早く避難したいが、年老いた両親がいるし、車もない...  
（ 助けを求める人がいますか？ ）
- ・ 大雨なのに、急に川の水位が低くなった。こんな時は大きな土石流が起こると聞いている。みんなに伝えなければ...  
（ どうやって地域に伝えますか？ ）

ひとりでは不安でも、地域の絆が深ければ大きな力になります。また地域の中には、避難するために助けが必要な方（災害時要援護者）もいらっしゃいます。土砂災害の危険箇所を抱える地域では、自主防災組織等を結成するなど、日頃から防災コミュニティのつながりを深め、災害に強い地域づくりを進めることが大切です。



# 災害に強い地域づくりに向けて

## 地域住民の手でハザードマップを作る

行政が作成したハザードマップなどをベースとして、住民自らの知恵や知識を書き込みます。地域に伝わる伝承や言い伝え、日頃から危ないと感じている箇所など、多くの意見を取り入れ、地域独自の情報マップを作成・共有している地域もあります。

- ・危険だと思う場所
- ・災害の前触れなどの情報
- ・一人で逃げることのできない人の場所や情報
- ・昔の災害発生場所
- ・災害に関する言い伝えなど



地域の情報が詰まった防災マップ

## 地域住民を主体とした防災訓練・防災教育の実施

いざという時にスムーズに避難するためには訓練が必要です。機会があったら是非参加して下さい。また、地域住民が主体となって、危機意識をもった訓練を行っているところもあります。

- ・自主防災組織が主体となった防災訓練
- ・住民の避難行動、災害時要援護者への避難支援など、実効性のある訓練が効果的。

